

平成23年度第1回東郷湖活性化プロジェクト推進会議 会議録

日 時 平成23年6月7日(火) 午後1時30分～3時35分
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

1. 開 会 進行：仙賀副町長

それでは、平成23年度第1回東郷湖活性化プロジェクト推進会議を開催したいと思います。開会にあたりまして、山田会長の方からごあいさつをお願いいたします。

2. 会長あいさつ

こんにちは。本日は会議にご出席いただき、どうもありがとうございます。お手元に東郷湖活性化プロジェクトのパンフレットがあるかと思いますが、ここにこの会の趣旨が端的に示されているように思います。我々の財産である大切な東郷湖、東郷池、これに係わって、例えば環境、或いは観光、産業、資源、色々な角度から様々な事業が行われています。ただそれが単発に行われている事業ということではなくて、お互いにそれがどのようにされているかを共通理解しながら、より有効的に係わっていくということがこの会の趣旨だろうと思います。それで、それぞれの分野に大きな数値目標を作っています。これは、環境、観光、産業、資源だけの目標ではなくて、色々な事業がここにどう集約しているかということも考えないといけないだろう、このようなプロジェクトだろうと思います。今日は、平成22年度の事業報告、そして、平成23年度どうするんだということと同時に、この会がより活性化するためにどうすればいいのか、そんなことも含めて意見をうかがえればと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

3. 町長あいさつ

皆さん、こんにちは。お忙しいところありがとうございます。今日は、平成23年度第1回の推進会議ということでございます。東郷湖活性化プロジェクトを始めて、ずいぶん運動と言いますか、客体、事業数あたりは増えてきております。そこで今の課題は、先程会長さんのごあいさつにもありましたけれども、共通の目標に向かってある程度この団体の活動をどのような方向でやっていくか、一方では住民の皆さんの理解を得るためにどうやっていくのかということが課題であろうと思っています。アダプトプログラムですとか、文化活動など、色々な部分で住民の皆さんにご参画いただいております。それらを進めていく上で、一つの手段になればということで、このパンフレットも作成したところでございます。今年は、そういったことも踏まえて、東郷湖活性化プロジェクトに関するシンポジウムのようなものも開催して、町民の皆さんにより一層理解を深めていただいて、参画していただければと思っています。それともう一つは、今年度の当初予算の中で、40数万円程度の僅かな金額ですけれども、東郷湖周の整備、それにソフト事業のようなものを掛け合わせたことを考えることができないかと思っています。後で説明すると思いますが、実はこの1月にあり

ました知事や県の幹部の皆さんはじめ、各分野を代表する町民の皆さんとお話をする「伸びのびトーク」がありました。その時に、知事に東郷湖周は4本の県道で囲まれているんですが、そこに歩道がないところがありますと。湯梨浜町の中では、最近、町が主催するトライアスロン大会はもちろんですし、NPO未来などが主催するウォーキング大会での活用、或いは町内の公園管理者の方がされるウォーキング大会、私どもが実施する、生涯学習・人権推進課が推進するウォーキング大会など、それから、滞在型観光を進めていく上でも自転車で湖周を回るというのも一つの手法であるということで、旅館に自転車を備えているところもあります。また、商工会とNPOが中心となって、東郷湖一周「ここは〇〇から何kmです」という様な観光案内板を自らの努力で作っていただくなど、そのような動きもあります。そういうことから、東郷湖一周を歩道で囲むような形にしていただければ、町の方がそこに上乘せする形で、町にちなんだモニュメント、出雲山には倭文神社の下照姫、めぐみのゆ公園には羽衣石の天女や九品山の中将姫、羽合地域には足湯が多くあり、七福神にちなんだものもいいでしょうし、或いは本場のハワイの伝説の美女のモニュメントもあり得るかなという様なお話をしまして、知事もその時には「面白い話ですね、協力しましょう。」ということで、実は中部総合事務所の方で、この6月の肉付け予算の時に要求していただきました。ですが、町の方もきちんと説明しきれない部分もありまして、今回の査定はゼロ査定だったんですけれども、引き続いて町の動きを見ながら県の方でも対応していただくということになっています。モニュメントを造ったり、その他にも木を植えるとか、要するに東郷湖周一体を一つのゾーンとして整備を図ってみたいなという夢を描いていまして、今年はそれにぜひ着手したいと思っています。それを進めていくにあたっては、役場だけが音頭をとってやってもお金を出せる間だけになってしまいます。桜の木を周囲に植えれば、アダプトプログラムと同じ様に、その桜を管理していつてやろうという住民の皆さんの協力がないと長続きはしない、完成しない話になってしまいます。そういう意味からも、住民の皆さんのモチベーションを高める努力も一生懸命していかないといけないなと思っています。そのことをやるにつけても、東郷湖活性化プロジェクト推進会議がある意味進行管理なり、チェック機能的な機能も果たしていただけるのではないかなという様にも思っています。どうぞよろしく願いいたします。

4. 委員自己紹介 進行：仙賀副町長

協議に入ります前に、平成23年度第1回目の推進会議ということで、人事異動、或いは交替された方もいらっしゃると思いますので、改めて自己紹介をお願いしたいと思います。

◆委員自己紹介 別添委員名簿参照

会議は、会長が議長となるということになっていますので、協議についてよろしく願いいたします。

5. 協議事項 進行：山田会長

それでは、協議事項について順次進めていきたいと思っています。

平成22年度事業実績報告について、お配りしている資料をご覧ください。順次担当課の方からご説明をいただきます。環境部門からお願いいたします。

(前田町民課長)

町民課では、n o. 1水草肥料化調査とn o. 3東郷池を守るアダプトプログラム制度の導入について、平成22年度実施して参りました。

進捗状況、実績でございますが、n o. 1水草肥料化調査につきましては、10月2日に町内の東郷湖漁協、それから小学生、倉吉西高校の生徒にご協力いただきまして、フサモの刈り取りを行いました。刈り取り量は資料に記載してありますとおり2トンということで、前年度の5トンに比べてたいへん少なくなっております。これは、水草の発生量が減ってきたということもございまして、その状況を踏まえながら刈り取り調査を行ったところでございます。刈り取ったフサモにつきましては、その日の内に広げ、後日乾燥作業ということで10月4日に実施いたしました。この時には、町内の保育所、それから、幼稚園の児童にもご協力いただいたところがございます。乾燥させたものは、肥料として各保育所の方で使っていたというところがございますし、また、パーク材ということで学校、保育所の方にもご利用願ったところがございます。

次に、n o. 3東郷池を守るアダプトプログラム制度の導入でございます。平成23年3月末現在で、参加団体が22団体というところがございます。活動実績といたしましては、延べ53回、717名の方にご協力をいただいたところがございます。この内容につきましては、町報にも記載をして、町民の方にもお知らせをしているところがございます。それから、こちらの資料には記載はしていないんですけども、今年の1月29日に「東郷池を考えるつどい」ということで、メダカの会の方からもご提案をいただきました。町民の皆さんに改めて東郷池について考えていただく機会をつくろうということで、1月29日に開催いたしましたして、182名の方においでいただき、色々なご意見を承ったところがございます。以上でございます。

(山田会長)

n o. 2魚道設置試験については、実施予定なしですね。(実施なし)

それでは、次を順次お願いいたします。

(岸田建設水道課長)

n o. 4水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、覆砂につきましては、平成21年年度から22年度の2年間にわたりまして、おおよそ30,000m³の砂を池の底に特設させていただきます。効果につきましては、次年度以降に発表すると聞いています。現時点では、底質の全窒素、リン、これがかなり少なくなったという風に聞いております。それから、前回シジミの稚貝については確認されていませんでしたけれども、今回は稚貝が確認されたという具合に聞いております。水質につきましては、局地的な変化はございませんでした。以上でございます。

(山田産業振興課長)

それでは、n o. 5シジミの生息環境改善対策でございますが、これはシジミの生息環境

を改善し、増殖につなげるために覆砂を実施するというもので、漁協と町で実施しているものでございまして、平成22年度は9月に補正予算を計上して、10月に実施、11月30日に完了したということでありまして。次年度以降も砂が確保できれば実施するというところで検討しております。

no. 6内水面の環境保全でございますが、東郷池のクリーンアップ、湖底、周辺を含めたゴミ掃除ですけれども、11月30日に完了しております。平成23年度で廃止ということで県が事業見直しをしておりますが、何とか継続できるように県の方にも要請して参りたいと考えております。

(中本企画課長)

no. 7稚魚放流調査でございますが、これにつきましては、サケの飼育放流プロジェクトに町として協力参加していこうということから実施しているものでございます。最終的には、3月10日から13日にかけて、東郷池、天神川に放流いたしました。前回の推進会議でも説明させていただきましたが、平成22年11月下旬頃に東郷川への遡上が確認されたところでございます。以上でございます。

(山田会長)

no. 1からno. 7までの環境関係で何かご質問等がありましたらお願いします。

(宮脇町長：副会長)

稚魚放流の遡上が確認された魚種は何ですか。

(中本企画課長)

放流しておりますのがサケでございますので、役場などの水槽で卵から育てて、稚魚を放流しているという事業でございます。

(宮脇町長：副会長)

もう一点、水草の肥料化、パーク材としての使用、それからアダプトプログラムあたりについては、次回からでいいですけれども、効果も入れると住民の皆さんにわかりやすくなると思います。パーク材として使ってみただけでもどうだったと、アダプトプログラムは22団体、717名が参加されていますが、今アダプトプログラムで東郷湖周の何kmをカバーしているのか、最終的には公園管理者の部分も入れると12kmカバーしないといけない訳で、そういった意味でも、見地からも数値を示してくれるとありがたいなという気持ちがありました。

(中本企画課長)

後からの説明になる訳ですけれども、平成23年度から個別事業の実施計画ということで、事業の評価であるとか、目標に対する達成度、最終的な評価という項目を設けているところですので、町長が言われるように数値の報告があるかと思っております。

(山田会長)

他に何かご質問はありますか。(特になし)

また後でお聞きしますので、ありましたらおっしゃってください。

それでは続いて、観光部門について順次お願いします。

(山田産業振興課長)

それでは、n o . 8 湖産物料理メニュー化促進でございますが、平成22年度においては特段のメニュー化はございませんでした。特に進展はないということでございますが、商工会のホームページの方にシジミを使った料理メニュー15品を掲載しているところでございます。また、「ゆりはま大漁まつり」や「地産地消ゆりはま市」を利用して、鯉を活用した「鯉めし」の販売も実施しております。

次に、n o . 9 観光客誘致でございますけれども、例年、冬季にカニバスツアーを計画しております。平成22年度におきましても、12月18日から3月31日まで実施しております。客数は若干減りましたけれども、期間が短くなったということで、実質的な乗車率は変わらなかったという報告を受けております。また、アンケート等を実施しながら、こういう取り組みのステップアップを図っていきたいと考えております。

次に、n o . 10 特産品販売促進活動でございますけれども、町内の特産品を活用した土産物を開発するというところで、観光協会、地域づくりプランナーと連携して展開しています。平成22年度は、東京アンテナショップ「食のみやこ鳥取プラザ」で湯梨浜町のキャンペーンを9月3日から5日まで行いました。観光協会では、地域づくりプランナーを現在2名配置しておりますけれども、梨シロップとか、梅漬け汁、甘酒、醤油といったものを菓子に利用できないかということで、今現在、試作を実施しているところでございます。

次に、n o . 11 観光商品造成戦略活動でございます。滝床料理とか、既存の観光商品等を含めて新たな観光商品の造成を図るという取り組みでございますけれども、観光客誘致宣伝キャラバンとして、昨年は4月5日から7日まで香川、高知、愛媛等で行って参りました。それから、既存の着地型観光プランの実施でございますけれども、滝床料理として896人、梨選果場ツアーとして54人、野花梅溪散策ツアーとして174人の受け入れを行ったところです。今後ともこれを推進し、拡大していきたいと考えているところです。

(山本燕趙園園長)

n o . 12 観光客誘致でございますが、燕趙園遊覧ということで、望湖楼の船をお借りしまして、燕趙園発着で東郷池を遊覧していただくという内容のものでございます。期間としては、4月から11月の毎週日曜日に実施しておりますけれども、資料に記載している実績(大人71名、小人2人)で、家族単位の利用が多いということで、少人数での運行になっているという問題点もあるところでございます。料金を1,000円いただいているというものです。

(山田産業振興課長)

続いてn o . 12-1 観光客誘致でございます。燕趙園が平成23年4月に道の駅として登録されるということで、燕趙園を中心とした区域の活性化を図るということでの取り組みでございますが、実際に今年の4月に道の駅として登録されまして、今後の取り組みということになる訳でございますけれども、平成22年度においては、平成23年1月17日に活性化に向けた意見交換会を開催いたしました。

それから、n o . 13 ホワイトライアスロンin湯梨浜でございますけれども、ご承知の

とおりでであると思います。平成22年度は5月22日、23日に開催しております。参加者数については299名、ボランティアの協力をいただきましたのは440名、大会スタッフとして160名で取り組んで参りました。目標としております町内宿泊者数の増ということですが、事務局で把握しておりますのが155名、町内の宿泊施設に泊まれたという実績でございます。以上でございます。

(中本企画課長)

no. 14湯梨浜夏まつりでございます。町としては、湯梨浜夏まつりとして水郷祭、はわい温泉まつり、東郷池周辺ではございませんが、とまり夏まつり、また、燕趙園が花火大会という形で実施をされています。実績といたしましては、水郷祭が平成22年7月20日、はわい温泉まつりが7月24日、燕趙園が8月14日、15日ということで実施しています。

続きまして、no. 15中華コスプレ・プロジェクトでございます。事務局は中華コスプレ大会事務局という形で実施されているところでございます。実績といたしましては、第8回中華コスプレ日本大会でございますが、平成22年5月22日、23日に実施されまして、約80名の参加、それから、第3回中華コスプレアジア大会については、10月23日、24日実施され、約140名の参加をいただいたところです。

次に、no. 16東郷湖ドラゴンカヌー大会でございますけれども、東郷湖ドラゴンカヌー大会実行委員会で実施されています。実績でございますが、第10回東郷湖ドラゴンカヌー大会という形で平成22年8月22日に実施され、102チームの参加をいただいています。人数としては、1,000人規模の大会になっているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、観光部門で何かご質問等がありましたらお願いします。

(山柘委員)

トライアスロン大会の町内宿泊者数が155名となっておりますが、これはどこでカウントされましたか。旅館組合に回ってきたのが34名ですけど、残りは多分倉吉のビジネスホテルだと思うんですが。

(山田産業振興課長)

事務局として受付をして、町内に宿泊された方が34名で、その他個人で申し込まれて、泊まれた方を含めた数が155名と聞いています。

(山田会長)

その他にありますか。(特になし)

それでは続いて、産業部門についてお願いします。

(山田産業振興課長)

それでは、no. 17水源域森林育成作業でございますけれども、県の緑の産業再生プロジェクト事業というものがございます。これは、間伐とか、森林整備等の補助事業でございますけれども、平成22年度として間伐を12ha、竹林関係を1ha、それからクヌギ等の分収造林を1.6ha実施したところでございます。これも平成23年度の事業で終了と

ということでございます。

次に、n o. 18エコファーマーの推進でございます。これは、農協と協力して進めておりますけれども、化学肥料や農薬の低減につなげていくという取り組みでございます。現在、エコファーマーの認定者が1,107名ということございまして、今後は特に、特別栽培農産物への認証ということに向けてレベルアップをしていきたいと思っております。この特別栽培農産物というのは、今までエコファーマーは農薬を半減するという目標設定してありましたけれども、これは無農薬とか、化学肥料の無施肥とかということで、相当内容としては充実しているもののようにございまして、これにアップしていきたいと考えております。

(山田会長)

それでは、産業部門で何かご質問等がありましたらお願いします。(特になし)

また後程ご意見、ご質問ありましたらお聞きしますので、次へ進めさせていただきます。資源部門について説明をお願いします。

(岸田建設水道課長)

n o. 19観光ルート整備ということで、町道今滝線に大型観光バスが乗り入れできるようにするというございまして、平成22年度につきましては、測量設計が10月で完了いたしました。すぐに工事発注ということで、3月30日に完成しております。ただ、これにつきましては、滝から200m程度の道路改良でございまして、残り300mという状況でございます。以上でございます。

(秋久生涯学習・人権推進課係長)

n o. 20東郷荘絵図活用導入事業でございます。平成22年度は、平成20年から3箇年間で継続して東京大学と調査、これは全国の荘園に関する調査を3箇年かけて実施しておられまして、昨年7月7日に本町においてなられまして、史料の作成等集約の方をさせていただきました。続きまして、従前から作成していた「東郷湖周辺の文化財」というパンフレットを2,000部増刷しております。次に、10月から11月にかけて県立博物館で開催されました「海と生きる」という特別展で、東京大学が所蔵されています東郷荘絵図の模写でございますが、その展示がございましたので、町民の方、一般の方から参加者を募りまして見学会を開催しております。以上でございます。

(中本企画課長)

n o. 21東郷湖活性化シンポジウムでございますが、平成22年度におきましては開催しておりません。

続きまして、n o. 22東郷池口ハスプロジェクトでございますが、これにつきましては、地方の元気再生事業という国庫事業が終了したことに伴いまして、実質的な事業は実施しておりません。ただその中で、芽生えてきたというんでしょうか、松崎おもしろ街づくり集団等では、地域で取り組んでいた三八市の活性化や空き家の活用を図っていただいたところでございます。

n o. 23ゆりはま塾でございます。これにつきましては、町の歴史、伝統、自然等について学びながら、後世に語り継ぐ人材を育成しようということで始めたものでございます。

平成22年度の実績でございますが、3回の講座を開催したところでございます。中近世の泊歴史探訪、さくら工芸品工房での染色体験、陶芸体験、そして、淀屋牧田家再生プロジェクトという形の歴史講演会を開催したところでございます。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

no. 24 藤津公園の地盤沈下対策ということで、これにつきましては、4月から5月にかけて関係団体との意見交換を実施しております。それをベースに6月に概略設計を発注し、概略設計が完成した時点でさらに関係各団体に説明し、確認を取っているところでございます。平成23年3月に詳細設計完成と記載してございますけれども、これは伸びまして、今年6月の中頃に詳細設計が出来上がる予定でございます。それを受けまして、再度関係各団体と協議、調整をさせていただき、工事を進めていくということでございます。以上でございます。

(中本企画課長)

no. 25 東郷湖活性化プロジェクト推進会議でございます。実績といたしまして、第1回推進会議を平成22年5月28日に開催、第2回推進会議を平成23年1月20日に開催いたしております。また、先程会長の方から説明のありました活性化プロジェクトの事業概要パンフレットを作成し、全戸配布による町民の皆さんへの周知を図ったところでございます。以上でございます。

(山田会長)

最後の数値目標の達成状況については、説明がありますか。

(事務局：林)

それでは、事務局の方から説明させていただきたいと思っております。パンフレットにも記載させていただいておりますが、先程来お話がありました環境、観光、産業、資源という4つの分野に目標を掲げております。環境については、東郷池の水質(COD)4.5mg/lということで、平成22年度におきましては、町民課に確認させていただきましたところ前年度と数値の変化はなく、5.5mg/lという報告をいただいております。それから、観光につきましては、観光人口(宿泊客)を年間20万人にするというものでございます。平成22年度につきましては、159,227人ということで、平成21年度に比べまして約1万人の増となるなど増加傾向にあるということでございます。また、産業につきましては、シジミの漁獲量年間200トンということで、こちらは、資源保護のために漁の制限をされたということをお話しております。その点、若干の調整があったということで、平成22年度については179.8トンという報告を受けております。資源については、各事業の目標値を90%以上ということで、昨年の会議の際には、資源分野にあげておりますゆりはま塾の数値を記載しておりましたが、委員の皆さんから取り立ててこの数値のみをあげるといふことに違和感があるというお話がありましたので、この分野につきましては、平成23年度の事業で進捗管理をしていくということを念頭に数値をあげておりません。参考までにゆりはま塾の数値を記載しておりますが、参加人員80名目標に対して55名と目標の達成はしておりませんが、内容を充実させたということでご理解いただけたらと思っております。

数値目標の達成状況については、以上でございます。

(山田会長)

ということで、資源、或いは最後の数値目標、どの部分でも結構ですのでご質問等ありましたらお願いします。(特になし)

それでは、平成23年度のご説明を聞いた上で、後の意見交換のところでご意見、ご質問をうかがいたいと思います。

続いて、平成23年度の実施計画について、ご説明を順次お願いいたします。

(事務局：林)

ひとつよろしいでしょうか。先程町長の方からもお話があったんですけども、平成23年度の実施計画を作成するにあたりまして、各事業の目標を設定していただくようお願いさせていただきました。と言いますのも、平成22年度の1月に開催いたしました推進会議の中で、委員の皆さんの方から色々なご指摘をいただいたところでもあります。その内容といいますのが、環境、観光、産業、資源の各分野の数値目標を掲げてはいるんですけども、個別事業そのものがどれだけその目標に貢献しているのかという貢献度の分析がなされていないということ、それから、この東郷湖活性化プロジェクト事業でプログラムを組んでいる訳ですけども、それに向けて数字論拠としての目標を立てて、関係者皆さんで協力しながら計画性を持った取り組みをしていかななくてはならないということ、個別事業自体がどれだけそれぞれの分野に寄与しているか、町に寄与しているかということをもっと明確にするべきであるということ、また、各事業の数値、或いは成果を上げていくためにどうすればいいのかということを担当課だけではなくて、この推進会議において戦略を練っていく必要があるのではないかということがありました。最後に、本当の目標というのは、例えば、清掃活動で何人参加してくださったとか、或いは町民運動において環境面でどれだけ活動が強まっているかという様な個別の目標を設定することの方が本来大事な指標になるのではないかというお話もありました。これらの意味も含めて、各事業にそれぞれの数値目標を設定して、最終的にどのように進めていったかという進捗状況を推進会議で報告させていただきながら、相乗効果といいますか、底上げを図りたいという思いであります。これから担当課の方から順次報告をさせていただきますので、皆さんの方でご協議していただき、ご意見を賜ればと思っております。以上でございます。

(山田会長)

それでは、その趣旨を踏まえながらご説明をお願いします。

(前田町民課長)

それでは、平成23年度東郷湖活性化プロジェクト実施計画の2ページからでございます。

n o . 1 水草肥料化調査ということで、これは県の補助事業をいただいて実施するものでございます。計画では、平成23年の9月下旬に引き続き水草の刈り取りを実施したいというところがございます。刈り取った水草については、肥料として利用しながら、環境学習、それから自然保護への啓発のきっかけとしていきたいというところがございます。刈り取り量につきましては、水草の発生量に応じて若干前後すると思っておりますが、平成23年度におき

ましても、前年度と同様に2トンを目途に刈り取りを実施したいと考えております。

続きまして、3ページでございます。n o . 2 東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進ということでございます。これにつきましても、県の補助事業をいただいて引き続き実施するものでございますが、今年度につきましては、参加団体が現在22団体でございますが、町内の中学校、それから、前年度は町外、倉吉総合産業高校のカヌー部であるとか、倉吉西高校、そのような団体の方にもたいへんご協力いただきました。そういうことも踏まえて、町内にもどんと発信をしていきたいなというふうに考えております。なるべく参加団体を増やして、今年度は前年度に対して3団体増の25団体、さらにその上をとということで進めていきたいと思っております。それと、先程の効果というところでございましたが、実はアダプトプログラムは平成20年度に16団体ということでスタートいたしました。東郷池につきましては、毎年春と秋に町民の皆様のご協力をいただきながら一斉清掃を行っているところでございます。ちなみに、平成19年度に東郷池の一斉清掃をした時のゴミは、1,030kgございました。それが平成22年度では360kgということで、東郷池周辺のゴミの量がアダプトプログラムに参加していただいている皆様方のご協力によって、だんだんと減ってきているのではないのかなと感じております。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

続きまして、4ページでございます。n o . 3 水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、覆砂事業につきましては、平成22年度で終了しております。引き続き効果検証ということで、これにつきましては、平成24年度まで実施するというところで、年4回、5月、9月、11月、2月で現地調査を実施する予定でございます。10月につきましては中間報告会、3月につきましては最終報告会を予定しております。調査項目ですけれども、水質、底質、底生生物、溶出速度、酸素消費速度ということで検証して参ります。以上でございます。

(山田産業振興課長)

5ページをお願いします。n o . 4 シジミの生息環境改善対策でございますが、先程平成22年度でご説明した内容でございます。シジミの生息域に覆砂を実施して、環境改善を図るということでございますが、現在のところ実施するという方向で進んでおりますけれども、まだ進捗はございません。

次の6ページをお願いします。n o . 5 内水面の環境保全でございます。湖底、湖面のゴミの回収をし、処理をするというクリーンアップ事業でございますが、これも現在のところ進捗はございませんが、平成23年度で終了ということでございますので、今年で終わるのかどうか、県の方にも要請しているところでございます。目標数値をとということで、数値をあげろということだったものですから、ゴミの回収量を前年の1割減としておりますけれども、目標については継続していくということが最も大切なことだと思っておりますので、ゴミが減ることを願って、1割減という数値を入れております。以上です。

(中本企画課長)

7ページでございます。n o . 6 稚魚放流調査という形で、先程平成22年度の実績報告

でもお話をさせていただきました。引き続き平成23年度も実施していきたいと思っているところでございます。スケジュールとしては、12月から始めて、3月に放流、事業の目標といたしましては、事業の進捗状況を随時ホームページ等で公開していきたいと考えています。以上でございます。

(山田会長)

次は観光ですね。続けて全部進めてください。それでは観光部門についてお願いします。

(山田産業振興課長)

8ページをお願いします。no. 7池の産物料理メニュー化促進でございます。現時点では特に進展はございませんが、今後は商工会等と検討しながら、家庭でできるメニュー化を図っていききたいと思いますし、目標としては、町内の飲食店で食べることができるようなメニュー化を図っていききたいと思いますと考えております。

次の9ページをお願いします。no. 8カニバス事業でございます。これも例年のとおり、12月から3月まで実施をするところでございますが、誘客促進ということで、町内施設への波及効果を狙っていききたいと思いますと考えております。

次に、10ページでございます。no. 9特産品販売促進活動でございます。現在、東京や関西地区などで効果が上がることを考慮に入れて、販売促進活動を実施しているところでありますし、今後も検討していきたいというところでございます。去年は東京のアンテナショップで実施いたしましたけれども、今年は東京日本橋の地域活性化センターイベントスペース、これは相当広いスペースの様でございますけれども、ここに出展して、町の魅力等を発信していきたいと考えております。

次に、11ページでございます。no. 10観光商品造成戦略活動でございますが、観光商品造成戦略会議、また、町の観光協会等と連携しながら、新しい観光資源の掘り起こしに努めて参りたいと考えております。特に、着地型観光プランの開発について、現在検討中でございます。以上でございます。

(山本燕趙園園長)

続いて、12ページでございます。no. 11燕趙園遊覧でございますが、先程申し上げましたように、例年と同様の内容で実施していきたいというふうに考えているところです。年間の目標ということで、利用者数100名ということで挙げておりますけれども、昨年の実績を見ていただいた通り利用者が多くないということで、そういう人数設定にさせていただいているところです。現在までの評価ということですが、家族単位の利用が中心で、団体利用へという方向に考えておりますけれども、現状から言えば、来年度以降のあり方については、一から検討が必要なのではないかという格好です。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、13ページでございます。no. 12道の駅燕趙園の活性化でございますが、今年の4月23日に燕趙園が道の駅として登録されました。これを基に、周辺地域の観光振興、地域の活性化へ向けて取り組んでいこうというものでございますが、実行委員会を立ち上げて情報発信を充実させるとともに、イベントや研修会等を開催する予定でございます。

ただ、6月は産業振興課の係わるイベントが多々ございまして、ハワイアンフェスティバルが終了してから実行委員会を立ち上げようかということで、準備に入っているところでございます。

次に、14ページのno. 13ホワイトトライアスロンin湯梨浜でございます。

(今年のトライアスロン大会のスタッフTシャツ紹介)

今年は、6月18日、19日に亘って行うように計画しておりまして、すでにその準備に入り、また、受付等も終了して、参加選手数もすべて揃い、ボランティアも470名の協力をいただきました。その中で、宿泊についてはこの数字が事務局で把握している範囲なんですけど、30名ということで申し込みを受けております。目標としては、参加者の内、特に県外の方の30%以上に町内の宿泊施設を利用してもらおうということを目指しています。以上でございます。

(中本企画課長)

次に、15ページでございます。湯梨浜夏まつりということで、東郷池周辺の魅力向上を図ることを目的として実施しています。今年度の事業といたしましては、7月23日に綱引き大会を計画しておりますし、24日に水郷祭、7月30日にとまり夏まつり、それから、燕趙園では8月27日に実施とうかがっているところでございます。平成22年度までは、はわい温泉まつりということで開催しておりましたけれども、平成23年度からは水郷祭という形でのまつりで、泊地区と2箇所を実施したいと考えています。事業の目標として、数値目標として挙げにくいところもある訳ですけども、ホームページのアクセス数を1,000以上という形で挙げているところでございます。それと、来ていただける方が増えるということが目標になるのかなと思っているところでございます。

次に、16ページでございます。no. 15中華コスプレ・プロジェクトでございますが、引き続き今年度も実施されます。中華コスプレ日本大会及び中華コスプレアジア大会でございます。第10回中華コスプレ日本大会はすでに終了しておりますが、5月28日、29日に開催されたところでございます。参加人員は、15都府県、58組の112名の参加でございました。第4回中華コスプレアジア大会を10月22日、23日に予定されているところでございます。目標といたしましては、参加者の増加を図り、本町及びイベントの魅力を発信するという形で、参加者数を前年度以上とすると設定しているところでございます。

次に、17ページでございます。no. 16東郷湖ドラゴンカヌー大会でございますけれども、こちらも引き続き実施ということでございます。第11回東郷湖ドラゴンカヌー大会を8月21日に開催予定でございます。参加受付を6月10日から7月15日までということで今年度は実施していきたいということでございます。事業の目標でございますが、参加チームの増加を図り、幅広く東郷池の魅力を発信するというので、参加チームを前年度の102チーム以上を目標として実施していきたいというものでございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、18ページでございます。no. 17水源域森林育成作業でございます。緑

の産業再生プロジェクト事業、県の事業でございますが、間伐等森林整備を進めて参りたいと思います。ただしこれも、平成23年度で終了する事業でございますので、その後どうするかということでの検討が必要になってこようかと思っております。今年度においては、竹林の整備2ha以上、森林間伐等で20ha以上を計画しております。

次に、19ページでございます。no. 19エコファーマーの推進でございます。平成22年度の実績でも申し上げましたように、特別栽培農産物認証制度に進めていくようレベルアップしていきたいと考えておりました、エコファーマーが今1,100名程度いらっしゃるんですが、さらに減農等を進めて参りたいと考えております。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

資料の20ページでございます。no. 19観光ルート整備ということで、今年度につきましては、事業を一時中止いたします。これにつきましては、用地買収等地籍調査が入るために今年度は見合わせまして、平成24年度に実施するという計画でおります。以上です。

(秋久生涯学習・人権推進課係長)

資料の21ページでございます。no. 20東郷荘絵図活用導入事業についてですが、今年度は二つの目標を掲げております。一つ目は、文化財解説ボランティアの育成ということで、ゆりはま塾と連携を図りながら、より専門的な東郷湖周辺の解説員を育成したいと考えております。旧町村単位で3名以上を目標としまして、主には文化財保護委員であるとか、町内の歴史研究会の皆さんに広く呼びかけして、事業を進めたいと思います。年間の計画としましては、研修会、町内の文化財見学会でありますとか、先進地の視察、または講演会の傍聴等で知識を深めて参りたいと考えております。続きまして、文化財啓発講演会でございます。先程、平成22年度の事業報告の方でも説明させていただきましたが、東京大学が3箇年かけて全国の荘園の調査をされまして、その研究成果ということで、講演会の方を年度内に企画したいと思っております。午前中に東京大学に開催時期の確認をいたしました。今のところまだ確かなことは言えないということで、内容的には2名程講師の方においていただいて、事業成果等を報告いただけるような内容にしたいと、有効な方向で進めたいと思っております。また時期等が決まりましたら、広く広報の方もして参りたいと思っております。以上です。

(中本企画課長)

資料22ページのno. 21ゆりはま塾でございます。第1期生という形で、2年間の塾として実施し、この度修了証書をお渡ししたところでございます。平成23年度からでございますが、第1期ゆりはま塾の反省点を洗い出しまして、もっと有効的に塾の目的を達成させようということで、実施計画案を作成中でございます。最終的には、後世に伝えるくらいの習得を目指していた訳ですけれども、そこまで達成していなかったのではないかなという反省点がございまして。それで、今回事業の目標としましては、東郷池周辺の地域資源を磨き次の世代へ継承する塾生を10名以上育成したいと考えているところであります。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

資料23ページです。no. 22藤津公園の地盤沈下対策ということで、県事業ござい

ますけれども、これにつきましては、詳細設計が一応6月中頃に終わるのではないかと、現在委託中でございます。工事費につきましては、6月の定例議会で予算要求をしているということでございます。年内で完成を目指しているというふうに聞いています。多目的広場で50cmから70cmの嵩上げをされる予定であると聞いております。以上でございます。

(中本企画課長)

最後になりますが、no. 23東郷湖活性化プロジェクト推進会議でございます。今年度におきましては、3回の推進会議を計画させていただいております。本日が第1回でございます。また、10月及び3月に開催を予定しています。事業の目標といたしましては、事業の進捗状況を随時ホームページ等で公開させていただきます。それで、資料を配布させていただいておりますけれども、先程町長の方からもありました「東郷湖・未来創造会議」というようなものを現在検討中でございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、全体を通して、平成23年度に係わってご質問、ご意見がありましたら、何なりおっしゃってください。

(宮本委員：総合事務所長)

実は昨晚、韓国の方々との交流でお酒を飲みまして、大韓ウォーキング連盟という団体ですけれども、来られた会長がハムジョンハンさんと言われるんですけれども、その方が江原道の前々知事だったらしいです。現在は国会議員で、3期目だと言っておられました。もう一人、SUN-IN未来ウォークに来られたんですけど、SUN-IN未来ウォークとの交流の立役者であるイガンウォクさんという大学の教授の方だと聞いておりますけど、昨日の晩交流しましたのに、ウォーキング立県を鳥取県はしようという知事の政策がありますので、どういう整理をしたらいいかということも、韓国は非常に国民挙げてウォーキングが盛んでございますので聞いたところですよ。そしたら、話に出てきましたのが、自分は世界各国を回ってウォーキングをしているし、日本も全国回っていると、千回ぐらいでも回ったと思うという話をしておられまして、その中でもこの東郷湖周辺が一番素晴らしいという話を自分の方から言われたもので、たいへん驚きました。東郷湖周辺は非常に美しいという具合に思っていたんですけれども、韓国の方から見られて素晴らしいという認識、話を聞いてたいへんうれしく思ったところですよ。会長が言われるには、欲がなさすぎますよと、もっとお金を落とすように仕掛けをしてくださいという話をされまして、やっぱり食べるころ、色々な体験ができること、そして、買い物がしたいということをおられました。そういうこともありまして、ウォーキングという視野もひとつ持って、検討いただいたらいいかなと思います。事業の中に入っていないので、早急にという話ではないんですけれども、検討のひとつに加えていただけたらなと思います。ウォーキング立県鳥取という取り組みの中にも、19市町村に全部1コースは持とうということをおっしゃって、まだ準備中らしいですが、携帯電話に登録しておく歩いた距離が携帯を見ると分かるという仕組みも今造成している最中であると、それは韓国の、世界で初らしいんですけれども、そういうシステムをイガンウォクさんたちが中心になって作られて、鳥取県でもそれを全国初で入れてみようかと

いう取り組みなんです。外国の人から見て一番だと、ナンバーワンというのは素晴らしいですから、ぜひ考えていただきたいと思います。

(山田会長)

ありがとうございます。町長、何かありますか。

(宮脇町長：副会長)

ごもっともな意見で、私どももその様にして、ひとつはノルディックウォークの拠点にしようということで、西日本のノルディックウォークのメッカにしようということで、NPO未来の方たちとも話をしております、そのために、町の方からもまちづくり協働事業の方で補助金を出したりしています。天女によるまちづくりと言いましたが、冒頭申し上げました東郷湖周の整備というの、ある程度そういうウォーキングのためのきちんとした主張できる受け皿を作りたいということが根本にあるものでございます。それから、ご紹介いただいた電話で、QRコード付きの看板というのは、実はこの間、商工会とNPO未来と町が少しお金を支援して、また、インバウンド対策ということで県からもご支援いただきまして、そのお金を使って4つの看板を作ったのですが、その中に取り付けております。それは、「伸びのびトーク」の時に、知事がそれを付けたらどうですかということと言われて、急遽おりこんでその看板にも付けるようにしております。そのように町の方も取り組んでおりますので、引き続きよろしく申し上げます。

(山田会長)

韓国では、ウォーキングして、健康づくりしていると保険料率が下がるんだそうですね。要は、そういうプラスアルファを付けて、健康づくりすると保険料率が下がっていく、健康な人はいないという話になっていく訳です。

(宮脇町長：副会長)

耳が痛いですね。

(山田会長)

ちなみに私は、鳥取県のウォーキング協会の会長ですけれども、ぜひお願いいたします。

(宮本委員：総合事務所長)

ウォーキングする世代の人は、この間SUN-IN未来ウォークに行って感じたんですけど、ほとんどが定年退職した後半の人なんですね。ですので、みんなお金を持っていらっしゃるんですね。どちらかというと、お金が落ちるんじゃないかなという、宿泊付きにもなる可能性もあるかなと、それは、やっぱり泊まってみたくなる、または買い物したくなるとか、そういうこちらの魅力づくりにかかっている部分もあると思います。すでに大きな財産になりますので、もっとお客さんが歩くことの発信をしていくともっと増える可能性もあるかなと、素人考えではそんな思いもしました。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

(仙賀副町長)

ご紹介ということで、資料には載っていないんですけども、東郷湖に関する事で水質

浄化を進める会というものがございます。衛生環境研究所のご協力をはじめ、色々な方々で構成されているものですが、私が事務局を担当しておりますのでご紹介させていただきます。前回の推進会議の際に、町長の方から東郷池の水質COD 4.5mg/lについてどうなのかというご質問があったと思います。客観的な数値がそれで分かるのかどうかという話の中で、実はこの会の中でそれも進めておまして、客観的な数値4.5mg/lというのはいかなものかと、また、その中で生態系の関係もあり、色々な五感によるものもあるということで、今回衛生環境研究所が中心となって、1,000人を目標とした五感によるアンケートを平成23年度実施するようにしています。私の方からというより、本日出席されていますので、衛生環境研究所の方からご紹介いただければと思います。

(門脇衛生環境研究所研究員)

先程、簡単に副町長の方からご説明していただいたんですけども、衛生環境研究所と湯梨浜町の方で連携をしまして、東郷池の五感チェックというものを今年1,000人を目標に行うようにしております。五感チェックと言いますのは、東郷池に対するイメージ、どんなイメージを皆さんが持っておられるかということ調べる調査として、例えば東郷池を見てゴミがどうであるとか、景観がどうであるとか、東郷池で獲れるシジミなどを食べてみたいと思うかどうかといった様な、CODという数値的な部分ではなくて、あくまでも皆さんが東郷池に対してどんな思いを持っておられるか、どんなイメージを持っておられるかというものを調べてみようという調査です。今年度のはじめから実施しておまして、一斉清掃の時であるとか、ウォーキングの時にもすでにご参加いただいているところもあるんですけども、今後町内で行われているもの等を中心に調査の方を行っていく予定にしておりますので、また、関係機関の皆さんにはご協力をお願いすると思っておりますので、よろしく願いいたします。

(山田会長)

他に各委員からいかがですか。(特になし)

事務局、次の意見交換で新たに考えておられることもあるみたいなので、説明をお願いいたします。

(事務局：林)

失礼いたします。最初に資料の確認をさせていただければよかったですのですが、平成23年度の事業計画の後に、東郷湖活性化プロジェクト事業体系図という資料を配布させていただきました。先程、担当課長の方から個別事業の目標設定についてご説明をいただきましたが、この部分が昨年まではなかった項目でございます。前回の推進会議の中で、個別事業の目標を明確にしなければいけないということがありましたので、平成23年度以降、それぞれの目標を立てながら進捗管理していこうという考え方でございます。先程、副町長の方からもご説明がありましたが、東郷池の水質CODの数値がどうだとか、結局他の分野でもそうなんですけれども、もともと事業の洗い出しをした時期、東郷池に係わる事業をピックアップした時期というのと、それぞれの分野の目標を立てた時期が異なっているということがありまして、正直なところ、最終的な数値目標の達成という部分に個別事業の成果が直接

的に結びついていくものもあれば、そうでないものもあるという様なことで、各担当におきましては非常に苦慮しながら目標の設定をしていただいたという具合に思っております。ただ、その事業を実施する上で目標を立てて、その目標が達成されるということを通して、間接的にでもそれぞれの分野の目標に近づいていくという取り組みが今後必要ではないかという様に思っております。その部分についての認識を各担当課もそうなんですけれども、委員の皆さんにもそのご認識を持っていただいて、さらにアドバイスをいただきながら、場合によっては、環境部分の事業目標が達成されることによって観光部分につながったりですとか、逆の側面から言えば、観光の部分環境につながったりですとか、そういう相乗効果が出てくればいいなと思っているところです。そのようなことから、資料の矢印の部分非常に今後大切になってくるのではないかと考えておきまして、そういうつながりであるとか、連携であるとかということについて、委員の皆様からのご意見をいただければなということがまず一点でございます。それから、先程宮本委員からお話がありましたけれども、平成22年度から23年度に向けて、特段新しい事業の追加ということがありません。ウォーキングのお話もありましたけれども、もともとこの東郷湖活性化プロジェクトの目的といいますのが、東郷池を町のシンボル、宝に見立てて、総合的な観光振興であるとか、農林水産業振興であるとか、環境施策を推進していこうという考え方でございますので、今挙げている事業以外に何かこういう事業で活性化を図れるという様なご意見、ご提言がありましたら、この場でおうかがいできたらなと思っております。以上でございます。

(山田会長)

各事業が全体の数値をどう達成するかというそのあたりのお話と、さらに、ここに書いてある以外にも色々なアイデアがあれば出してほしいということで、ここからは気楽にどんなことでも結構ですので、お話いただければありがたいと思います。いかがでしょうか。

町長さん、一番初めのごあいさつに或いはあったかもわかりませんが、東郷湖の湖畔全体を歩いて、自転車で行けるという計画はあるんですか。ちょっと一部行きづらいところがあるなと思っているんですけれども、それはどんなふうにお考えなんでしょうか。

(宮脇町長：副会長)

それを今年、東郷湖活性化へ向けた推進体制(案)【資料】の中の後半部分で触れておりますけれども、「東郷湖・未来創造会議」というものをつくって、これをわざわざ東郷湖活性化プロジェクト推進会議と別立てでつくるのは、ある意味、町民でやる気のある実践団体の方たちも交えて実施したいという気持ちがありまして、別立てでと基本的には考えているんですけれども。

(事務局：林)

東郷湖活性化へ向けた推進体制(案)という資料がございますので、そちらをご覧くださいませうでしょうか。

(中本企画課長)

東郷湖活性化へ向けた推進体制(案)という形で資料を配布させていただいています。推進体制といたしましては、現在、東郷湖活性化プロジェクト推進会議において色々検討しな

がら進めているところでございます。それで、先程からお話が出てきておりますが、「東郷湖・未来創造会議」というようなものを立ち上げてみてはどうかと考えているところでございます。町長のお話にもありましたように、東郷湖の周辺につきましては、たくさんの地域資源があるのではないかとということで、地域に古くから伝わる羽衣石の天女とか、倭文神社の下照姫命、九品山の中将姫などがあるものですから、これらを何とか活かすような活性化ができないだろうかということで、ワーキングチームを結成しながら、ワークショップ形式で会議を進行していきたいなと思っているところでございます。フリー的な形で今年度立ち上げていきたいなということでございます。それで、組織図を付けておりますけれども、東郷湖活性化プロジェクト推進会議が左側でございます。未来創造会議という形でワーキングチームを結成していったらどうかということでございます。役割として、社会資本整備チームとか、観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームとか、イベント・コンテンツ開発チームという形で、3つのチーム分けで実施していこうかと考えています。委員については、住民の公募とか、住民グループ、NPO、ボランティア、各種団体等に参加していただいて、有機的な意見を述べていただいて、活性化プロジェクト推進会議の方に具体的な協議という形で上げていきたいなということでございます。詳細につきましては、林の方が説明いたします。

(事務局：林)

少し話しが重複するかもしれませんが、冒頭より町長がお話されておりましたけれども、この推進会議は東郷湖の活性化に向けた推進母体という形で、色々な事業の進捗管理であるとか、事業が発展していくための連携体制を図るということが基本になるかと思えます。ただ、東郷湖周辺には色々な地域資源があるということで、それらを活用しながら、さらなる発展ができないかということでございます。資料の図にも掲げておりますけれども、町民の方から広くご意見を聞く、アイデアを聞くというワーキングチームを立ち上げながら、そこで集約したものを場合によってはこの活性化プロジェクト推進会議にフィードバックさせていただいて、具体的に実現化に向けて取り組んでいこうというものでございます。先程来、東郷湖周辺の道路の話も出ておりますけれども、その他桜の植樹の話も今まで出ていたと思えます。そのようなものを社会資本整備という形で色々なアイデアがないかということを検討いただくこと、それから、観光・物産の活性化、顧客満足度の開発については、産業振興課、或いは観光協会の方で、今、特産品開発などの取り組みを一生懸命していらっしゃいます。様々な会議でお話を聞くと湯梨浜町にはお土産物がないだとか、このようなものが土産品として活用できるのではないかということもうかがっておりますので、具体的に商品化までこぎつけることができるような取り組み、アイデアを集約してはどうかと考えております。イベント・コンテンツの開発については、例えばミュージカルであるとか、地域では松崎のおもしろ街づくり集団やワイワイカンパニーさんが色々と活動されておりますけれども、イベントを通じた活性化ができないかというふうにも考えております。このように、3つくらいのテーマを持ったワーキングチームを立ち上げながら、町民の方の参画をいただくとともに、アイデアを集約して、東郷湖を通じた湯梨浜町の魅力を発信できるような体制を

とろうという考え方でございます。まだ案の段階でございますので、これからもう少し内容を詰めながら、広く町民の方に呼びかけていきたいと思っております。町長の方から補足をいただければと思います。

(宮脇町長：副会長)

先程、会長がおっしゃいました周回コース、周辺道路の整備につきましては、この社会資本整備チームの中で検討していきたいと思っております。各部会は、それぞれ関係行政機関と関係団体、それから公募をする形で取り組んで実施してみたいかなというような人選で考えておりました、今月中にも公募の作業あたりにはかかりたいと思っております。こういう活動を進めていくにあたりましては、アドバイザーといたしまして、福井昌平さんという奈良1300年祭や愛知万博のチーフプロデューサーをなさいました方が、この湯梨浜町の田後のご出身でございまして、東京で今事務所を構えてやっておられるんですけども、その方とも色々コンタクトを取っております。実は福井さん自体も、西尾県政時代に東郷湖ホロボ構想ということで、このあたりを一体的にホロボ的な考えで整備したらどうかという構想も持っておられた様でして、それと、合併以前に東郷湖周に花を植えてみたらどうかということで、当時の羽合町と東郷町に提案したんですけども、東郷町の方からいい返事がもらえなくてダメになったという経緯があると話しておられまして、私がこの話を持ちかけた時に、福井さん自身も、実はこういうことがあってねということで話していただいて、いっしょにやりましょうということで、福井さんはイベントのチーフプロデューサーとして有名なんですが、本職は地域デザイナーと言いますか、そういうことが本業でございまして、東京の多摩区の住民が主体となって桜を植える取り組みですとか、そういうことの支援も手がけておられるということで、係わってやっていただこうと思っております。ですから、この東郷湖活性化プロジェクト推進会議との棲み分けといいますと、実践するための特例子会社を作るという様な感じで、この未来創造会議の方は捉えていただければありがたいかなと思っております。

(山田会長)

この未来創造会議についてでも結構ですし、或いはその中身についてでも結構ですし、何かありましたらお願いします。

(宮脇町長：副会長)

先程の宮本委員から提案いただきましたことについて、何か一項目入れておきましょうか。東郷湖の魅力アップでもいいし、東郷湖周道路の整備でもいいですし、議論するために何らかの形で入れておいてもいいかもしれないですね。

(宮本委員：総合事務所長)

旅館組合の皆さんはどう捉えておられますか。私の単なる考えだけでは心もとないですから。

(山柘委員)

おっしゃられる通りだと思います。確かにウォーキングだとか、かなり今流行ってきています。朝、松崎駅前を通行している方が多いですね。それで、お昼ご飯をお弁当か何かを持ってきて食べて、残念ながらあまり観光には興味がないというのが現状です。先程町長が

おっしゃられた様に、桜の花を植えたり、素晴らしいというのは、調べてみますと東郷湖は確かにいいんですけど、ただ関西方面に行くとかあんまり有名ではないんですね、実は。東条湖と間違われるとか、東郷温泉は東条温泉と間違えて来るとか、だからそれを本当はもっとアピールしないとイケない、そうするとせっかくこういう機会に東郷湖の歩道をつくって歩きやすくするとか、あとちょっとベンチがないんですね。そういう休み場所だとか、お店は人が集まってこないとどうしても売れないと思いますので、そちらは次の順番の話だと思います。具体的にそういうことをしていったら、後は、例えばせっかく東郷湖の周りに七福神の足湯が6つありますので、そういうことを含めて、ウォーキングで例えば6つのところのスタンプラリーみたいな形でやってみるだとか、先程食の話もありましたけれども、せっかく食のみやこで情報発信していますし、東郷湖の周りには色々な産物があるじゃないですか、野菜だとか。そういうものを通じて、例えば幕の内弁当か何かをして、ウォーキング大会を主催してそれを配るみたいなことをやってもらって、今度はスタンプラリーをつくって、最後で言うと旅館だとか、燕趙園で賞状をもらうとか、割引をして、利用してもらいたいなと、ストーリーを作って考えたいなとおぼろげながら思っています。

(山田会長)

未来ウォークは、今年は多分3, 500人くらいの参加だったんですね。それで、全国歩いておられる方で、100人、200人単位で、そういう方々はまずお金を落とされません。

(山柘委員)

かなり泊まられているんですよ。倉吉の方に。

(山田会長)

それと、歩きのプロみたいな方はほとんどお金を落としません。ただ今増えているのは、むしろ10km、5kmコースを歩かれる若者がものすごく増えています。今年も嫌というほどおられました。それは、わりあい島根県などから来ているんですね。今年テーマをファッションにしたんです。ものすごく昼間歩いている人はファッショナブルでした。だから、歩く層が増えていて、随分変わってきているんです。宮本委員が見られて、夜の会に出られるのは高齢の方なんですけれども、昼間歩いているのは若い人がものすごく増えています。その層は逆にお金を落とすと思います。

(山柘委員)

とにかく、キタロウロードではないですけども、テーマを作ることが大切ですね。

(山田会長)

歩いて温泉に入りたいとか、歩いて食べたい層が結構増えているんですね。先程の韓国の方じゃなくても、日本のウォーキング仲間でも、このコースは最高だとみんな言われます。ですから、もっと歩くコースを整備すると全然変わってくると思います。

(山柘委員)

PR、仕掛け作りが大切だと思います。

(山田会長)

それは、ぜひ考えたら面白いと思います。いくらでもデータはあると思いますので。

(宮本委員：総合事務所長)

山田会長がウォーキング協会の会長ですからね。一番色々資料を持っておられるので。

(山田会長)

ただ、静かに歩きたい方から言うと、あんまり賑わうのは困るんですね。そこは矛盾があるんです。

他にいかがでしょうか。(特になし)

夏の推進会議はどんなことが議題となりますか。

(事務局：林)

中間の取りまとめをしたいということがあります。特に、事業の目標を定めていただいているということがありますので、その進捗状況のチェックというものが主になろうかと思えます。

(山田会長)

町長、この新しい取り組みは、夏段階ではまだ動き出していないですか。

(宮脇町長：副会長)

動いています。

(事務局：林)

町長の方がおっしゃいましたけれども、6月中に委員の募集をかけて、少しずつワーキングチームを機能させたいということですので、それとの兼合いがあるものですから、このプロジェクト推進会議との日程の調整を行いたいと思います。

(山田会長)

こういう様々な事業の進行管理や情報の共有ということをまずこの推進会議ではしていただきたいということと、それから、先程の様に新たな提案があったら、またそれもしていただければありがたいと思いますので、夏の時にそんな部分もぜひあったら教えてください。お願いします。

他にいかがでしょうか。

(宮脇町長：副会長)

実は最近といいますか、二つは今日、来客でお見えになった方のお話なんですけど、一つは、NPO法人で湯梨浜ふるさと塾を設立してはどうかというもので、京都の龍谷大学の学長をしておられました若原先生が勝福寺の住職さんでございまして、退官して帰ってこられるということもあって、龍谷大学で教授をしておられる方がこの湯梨浜を見た時に、何て素晴らしいところだここはと、ひとつの国を形成している様なところだという感想をもらされたことがあって、一目見てそうおっしゃるのかと思って私その人を見たんですけども、その方などがご提案しておられるんですが、若原先生をトップにしてそういうものを作って、湯梨浜の歴史とか、そうものに取り組んでみてはどうかという提案をいただいています。これは、先程生涯学習・人権推進課の方が説明しました歴史塾ですとか、或いは企画課がやっておりますゆりはま塾と係わることなので、またそういった方たちとのタイアップというのも必要ではないかなと思っております。それから、新規の項目の一つに思うものの中で、橋津川

の不法係留について要望がありました。何十年来の懸案になっているので、これを何とか取り組んでほしいということで、たまたま昨日、県土整備局長さんと私どもの年に1回の打ち合わせ会があり、その中でこのことも議題になっておりまして、とりあえず県の方としては、どういう人が船を置いておられるか、その調査から始めるということでございます。私は、治水上支障がないんだったら、もう特区にして、置かすかわりにお金を払わせると、もらったお金で係留所のきちんとした整備であるとか、そういうことをやったらどうかということをご提案したんですけども、なかなか水に関する事、治水に関する事は難しい、特区は。川は、旧内務省なもんですから、そういうところは非常に頭の固いところだということも言われましたし、難しいだろうと思っておりますが、この取り組みをひとつ項目として挙げ得るのかなとも思ったり、もう少し様子を見て、動ける方向性が出てからでもいいのかなと思ったりして、この二つはご紹介とさせていただきます。それから、少し前に町民の方から提案を受けたもので、東郷湖一周ぐるっとみんなで手をつないで囲って見たらどうかと、そしたら、すごいニュース性があるよと、みんなでこんなに愛して良くしますと、ぜひ検討してくれと言われておりますが、これから人数が何人ぐらいいるかな、どのくらい声掛けをすれば可能なのかなというあたりを研究したいと思っております。

(山田会長)

土海教育長、小学生や中学生に東郷池を語らせてください。こんな東郷池になったらいいなあと。東郷池をどうしたいかという小学生や中学生の意見が聞きたいです。

(宮脇町長：副会長)

さすが、会長と私とは意見がピッタリ一致しておりまして、実は今年の東郷湖活性化のパンフレットを活用して、住民の方を交えたシンポジウムか何かをやりたいと思っております、その中で子どもたちの体験発表や思いの発表みたいなものも入れたらと、教育長にはまだお話ししていませんけども、私もちょうど思っております。

(土海教育長)

実は海づくり大会がありまして、その席で東郷小学校の子どもたちが発表する機会をいただくそうだとということで、今協議が進んでいます。という様なこともあって、つい先日28日の日に、東郷小学校の5年生が全員で東郷池を一周したんだそうです。それで、子どもたちのことですから、出雲山から見た東郷池がきれいだと、手にはゴミ袋を持ってどれぐらいゴミがあるんだろうかということも、それだけきれいにしていこうという様なことの取り組みをして、18袋のゴミがあったと話をしておりまして。子どもたちは、今おっしゃられましたように、東郷池についてそういう思いも持っていると思いますので、先程いただいた案を学校の校長ともよく詰めていきたいと思っております。

(山田会長)

燕趙園の観光船に乗せてあげてください。そこからのことについて意見が聞きたいです。

他にいかがでしょうか。(特になし)

他に事務局ありますか。

(中本企画課長)

皆さん来ていただいておりますので、一言ずつでも言っていただければと思います。

(山田会長)

順番にいきましょう。何でも結構ですので。

(伊澤委員)

今日、初めて出させていただきました伊澤です。先方、宮本委員がおっしゃられました東郷湖周辺のウォーキングですね、東郷湖周辺もいいんだろうと思いますけど、もうひとつ周辺に、ウォーキングでも色々とコースが取れると思うんですけど、私が感じておりますのは、橋津の浜の自転車道がありますね、あのあたりのウォーキングも松林の中でいいんじゃないかなと思いますし、もう一つ、馬ノ山、ちょっと平坦地ではないですけど、馬ノ山を經由して海岸に降りるとか、それからもう一つ、難しいかもしれませんが、長谷経由で鉢伏に上げていただいたら、ハードになるかもしれませんが、そういうコースも鉢伏から眺める東郷池、日本海、素晴らしいものがあるかと思えます。そういうものも含めたコース作りをしていただいたらいいんじゃないかなというふうに思っております。それで、一番私が長年山のことで感じておりますのは、湯梨浜町の魅力というので他の町村にないものがあるかと思えます。その一つは、山があり、川があり、池があり、海があると、これだけ一つの町で揃っているということは素晴らしいと私は思っております。そういうことで、東郷池は大事なんですけど、宝なんですけど、その周辺にももう少し目を向けていただきたいなという様に思っております。以上です。

(長谷岡委員：代理坂口)

衛生環境研究所です。先程紹介をさせていただいた五感チェックによるわかりやすい指標づくりとか、そういったものをこれから進めていきたいと思っておりますし、もう一つ、国の方でも、従来CODとか、窒素とか、リンとかという、化学的な指標よりはもう少しわかりやすい指標はないかということで、指標の見直しという様なものもやっておりますので、そういう情報等もあれば、またこの会でもご紹介させていただきたいと思っております。それから、東郷池ではメダカの会ということで、環境への取り組みをやってらっしゃいますけれども、県内では中海とか、湖山池、たくさんのNPO等が活動していられちゃいますので、そういったところとどンドン肩を並べていただけるように、色々な活動、取り組みの紹介もさせていただきたいと思えます。以上です。

(古田委員)

私どもも、専門部署としてお話させていただきますと、体系図の中に数値目標の達成というところがございまして、シジミ年間漁獲量200トンという具体的な数値が書かれています。既に200トンというのは何回か達成されたこともあるかと思えますけど、この産業という流れの中で、no. 17水源域森林育成作業、或いはno. 18エコファーマーの推進というのがあるって、最終的にシジミが200トンとなると何かおかしいかなという違和感がありながら見ていたんですけど、実は東郷湖にとってシジミというのはとても魅力的な大きな資源であると、年間200トンといいますと2億円以上になるかと思えます。時には、300トン近くあがったことも過去にはある訳ですけど、そうすると3億円とい

うこととなります。非常に大きな自然の資源であり、目を向けるということは大切なことで、この体系図の中にも、シジミの生息環境改善対策ですとか、それから、池の産物料理メニュー化促進ということが挙げられている訳ですけど、一つ紹介という形ですけど、シジミが自然に湧いて出るということではなくて、実は漁協によって、水門のコントロールによって、シジミをうまく産卵させるという努力が毎年なされています。そういう意味で、産業のところに漁協の取り組み、シジミ資源の取り組みということがあればと思います。そういう中で、栽培漁業センターもシジミの産卵状況ですとか、どういう具合にシジミが増殖しているのか、どれぐらい獲ったらシジミが維持できるかというような調査をさせていただいて、漁協にアドバイスをさせていただいているところです。もう一つは、観光の方でn o. 7池の産物料理メニュー化促進というのがあって、中身としてシジミの料理メニューが考えられるということが書いてありましたが、今200トン弱のシジミがどういう具合に流通しているかということ、多くは京阪神へ、たいへん人気のある黒いダイヤということで、鳥取県の方々以上に関西の方々の方が大きな魅力を感じておられるという実態があります。そういう中で、料理メニューを作っていくのはいいんですけど、どこに行けばこれが食べれて、どこに行けば買えるのか、一般の観光客の方が東郷湖周辺に来られて、黒いダイヤを買おうかと思ったら、どこに行けばこれが得られるのかということが大事になってくるかなと思いますし、漁協の方も高い方に売るのは経済事業で当たり前のことですので、それ以上に魅力が出るような、漁協にとっても魅力が出るような流通というのをこの地域の中で、漁協だけではダメなんですね、皆さんで考えていくというのは、地域の資源を地元に残すという意味で、活用するという意味で大事じゃないかなということで、ぜひとも事業の中に盛り込んでいただけたら、我々も出番があるかなと思っています。以上です。

(福楽委員)

先方も、山田会長が小学生に観光船に乗せてあげてほしいとおっしゃいましたけど、私たちも昨年になりますけども、女性団体の東郷支部で観光船に乗りました。やっぱり、池の方から見る東郷池、池の真ん中の船の中で見る東郷池はちょっと違うんです。さすが東郷池だなということを感じました。羽合の女性団体も今年乗られたということを知っています。それから、滝床料理にも行きましたし、観光の面というものは、女性団体は経験してみないと感じております。

(川口委員)

東郷湖活性化とは少し違うかもしれませんが、町の中で何となく、私も旧羽合町なので、羽合のものがだんだん薄れてきている様な思いがありまして、ハワイまつりもなくなるし、温泉まつりもなくなるし、今ハワイアンフェスティバルをすごく盛んにされていますけれども、奥様はたくさんお金を持っていらっしゃいますから、それをもっと利用して、観光させるとか、何かもう少しハワイを売ってほしいなとか、最近さびしいなとか、そういうふうには思っています。

(山柘委員)

観光という立場で言うと、ある意味チャンスかなと思っている部分もございまして、怒ら

れてしまうかもしれませんが、東日本の震災で、目が今、西日本に向いています。今年は、JRのデスティネーションキャンペーンに向けて山陰地方を売っておられますし、古事記1300年祭ということで、島根県と組んでPR活動をしています。来年にあたっては、マンガサミットという形で行われます。ちょうど観光客のウェブなどを見ているところです。今、色々PRをしています。カニバスは旅館組合で取り組ませていただいておりますけど、中華コスプレだとか、ドラゴンカヌーだとか、先程ハワイのお話もありましたし、今年は12月に花火大会をやるのかなという話もあります。それを含めて、全体で東郷湖中心にアイデアで結びつけることができないかなと思っています。例えば、島根県で言えば、縁結びという大きなテーマをつくって、その中に色々な縁結びにどこか係わり合いがないかなということで一本化しているんですよ。空港なども、島根県は出雲縁結び空港、鳥取県は米子鬼太郎空港ですけど、ここも同じ様に少しバラバラの感がありますよね。東郷湖についても同じで、そんな願いがあります。それを含めて、テーマを決めてその中に観光だとか、環境だとか、産業だとか、資源だとか、そういう一つの何か象徴みたいなものを作ってできないかなと思っています。それと、四国の方に与島というところがあって、アートレストランというものがあります。ウォーキングで歩いて見て回る時に、色々な現代美術があるということで、結構人を集めていますので、そうするとそんなことも考えられないかなと。漠然とそういうことを思っています。以上です。

(尾崎委員)

私の方も、どちらかというと観光関係の方になってしまうんですが、船の件で燕趙園が日曜日だけ遊覧船を運行されていますが、PRが全然足りてないんじゃないですかと言ったんですけど、私も何回か船の方は遊覧させてもらったことがあるんですけど、地元の人たちが全然わかっていないということがあって、観光関係は外に発信することは非常に力を入れてらっしゃるかもしれないけど、町民自体がそれをわかっていないということがさびしいというか、もうひとつパワーがないんじゃないかなと思うんですね。町民もそういうことがわかれば外に向かって町民自体が発信できる、そのあたりを内と外と同時にできる様なことができないかなと思います。育てるというか、ガイドを育てるということも、たくさん集まっている訳ではないですよ、実際の数を見てみると。だから、地域の中の人たちが、自分のところの良さをPRできるようになるまで、両方に発信していくことが大切だと思います。

(山本委員)

燕趙園でございますけれども、私は鳥取の方から燕趙園に通勤しております、しみじみと東郷池を見たということがないんですけども、燕趙園の方に来て丸2カ月が経ちまして、途中東郷池をゆっくり見る機会にもなりました。そういう中で、活性化事業をやっておられるということは非常にいいことだなと思っています。燕趙園遊覧の話をさせていただきますけれども、先程お話をいただいたように、PRが足りていないんだなということは感じております。そのあたりも見直しをさせていただきながら、燕趙園としましてもどんなことができるのか、これから考えていきたいなと思っております。また、道の駅として4月23日に

オープンした訳ですけれども、お出でになられた方は、どこに道の駅ができたのという方が結構おられまして、通常道の駅ができるとなると新しく建てられるというところがほとんどなんですが、燕趙園の場合には、従来からある施設を道の駅として登録したということで、外見上は代わり映えがしないということがあります。情報発信の端末も置いているんですけども、何が変わったんだということもありまして、もう少し加工品であり、農産物であり、そういったものを充実させていきたいと考えておりますので、皆様方の協力をお願いします。
(足立委員)

東郷湖漁協といたしましては、これは公園管理の問題になるかもしれませんが、シジミ獲りをしていると結構ビン、カンで捨ててあるものがジョレンの中に入ります。漁師の皆さんは、みんなこれを船に積んで持って帰って、どこに捨てるかということでゴミ入れを作っ
て置いてあるんですけど、観光で来るとか、遠足で来るとか、弁当ガラとかみんな捨ててしま
って、いざという時に役に立たないもので、これを何とかしたいと困っています。ゴミの
管理をきちんとする様な看板を建ててもらうなど、何とかしてもらいたいと思います。池
の周りがきれいになっても、池の底に溜まっているので、みんながきれいだと言います
けど、実際は池の中にいっぱいゴミが捨ててあります。これを何とかするために協力して
いただきたいと思います。

(川崎委員)

私は、湯梨浜景観コンテストの審査をさせていただいています。5年間くらいになります
か、そうすると湯梨浜の新名所というのが結構出てきますので、それをやっていて楽しいし、
ですから、外から来られる方の方がよくご存知というところもございますので、結構楽し
みにしています。今年も9月いっぱい締め切りで行われますので、よろしくお願
いします。

(佐々木委員)

私は、農産物加工所なんですけれども、町内には昔からの農産物で、おいしいものはもち
ろんですが、昔からある体にいいものが加工品でもたくさん出てきておりますので、おい
しいもの、それから、体にいいもの、このプロジェクトの中ではたくさんの人を呼び込ん
でくるといような活動がたくさんできておりますので、そういう人たちに広げていけたら
いいなと思っておりますので、よろしくお願
いいたします。

(津村委員)

こうして会議に参加させていただく度に、何か東郷池に関するような色々なことがあるの
で、私たちの加工品の中にもブレンドできたらなという思いも出てきました。子どもの時
には、東郷池を松崎から浅津までポンポン船に乗って行ったり来たりして、一の宮さんには、
橋津から青年団の人が漕いで送ってくれた思いがあって、東郷池は大体きたないなとい
うのが思いだったので、トライアスロンと聞いた時にはびっくりしました。そうやって皆
さんの努力で一步一步進んでいけたらと思いますし、小学校の子どもたちにも清掃活
動に参加したらという呼びかけがあります。そしたら、親は何で私たちが東郷池の掃
除をしにいかなくてはいけないのか、という泊の子どもたちのそういう思いがある
みたいで、湯梨浜町が東郷池中心で、東郷と羽合だけではなくて、全町民が自
慢できるように小学生からでも教育しても

らって、行こうやという思いをみんなに持ってもらえるような活動を進めていってほしいと思います。

(門脇衛生環境研究所研究員)

衛生環境研究所ですけれども、先程小中学生さんからの思いを語ってほしいという意見が出ていたと思いますが、衛生環境研究所の方にも町内の小学校、中学校の方から、東郷池をテーマにした環境学習をしたいというお話をよく聞きますので、そういう活動をぜひ情報発信というか、発表できるようなことをセッティングしていけたらいいんじゃないかなと思います。

(吉井中部総合事務所県民局企画調整参事)

今日は、皆さんから色々なご意見をお聞きできて、非常に感銘を受けております。今日、最初から色々とお話が出ておりますけれども、中部をウォーキングのメッカにということで取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひご協力をいただければと思います。よろしくをお願いします。

(山田会長)

そうしましょう。

(宮本委員：総合事務所長)

今日は、皆さんのそれぞれの立場での色々な積極的な思いを聞かせていただいて、本当に良かったなと思っております。ありがとうございました。

(山田会長)

町長、最後に何かありましたらお願いします。

(宮脇町長：副会長)

基本的には、みんなが東郷池を中心に、ゆったりとした、ロハスの町で実証実験を少しやりかかりましたけども、国の制度がなくなって途中で終わってしまったんですが、そのあたりと結びついた活動であろうと思っています。この地域の魅力を高めるために、皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

6. その他

(事務局：林)

最後に、橋津川水系河川整備基本方針及び東郷池河川整備計画の策定という資料をご覧ください。今日は、県土整備局の方から倉本副主幹に来ていただいております。東郷池に関する重要な計画ということもございますので、ご説明いただきたいと思います。

(県土整備局：蔵本副主幹)

失礼いたします。中部総合事務所県土整備局の倉本と申します。よろしくお願いいいたします。少しこの場をお借りして、今年度、県土整備局の方で取り組みを予定しておりますことについて、ご紹介をさせていただきたいと思います。手短に済ませたいと思いますので、駆け足になるかもしれませんが、資料の一番上のページの四角の中に、これから説明することが簡潔にまとめてございます。

・東郷池の重要水防区域の解消に向け、今年度から、治水・利水・環境のバランスを考慮した河川整備基本方針及び河川整備計画を策定します。

・この内、河川整備計画については、東郷池の特性を踏まえ、素案づくりから地域関係者にも参画していただきながら計画を策定していきます。

ということで書いてございます。それで、何をするのかということなんですけれども、資料の4ページ目をご覧ください。先程から東郷池は地域の宝ということで、色々お話が出ているところなんですけれども、実は東郷池というのは橋津川水系の中ほどにあります河川として管理をしております、記憶に新しい方もあるかと思えますけれども、昭和62年の10月の台風19号の時には、東郷池の水位が通常ですと30cmから50cmという水位、水位というのは海面からの高さですが、真ん中の表の様に2mぐらいの水深まで上がった実績がありまして、この時にはたくさんの浸水家屋が発生したり、43億円もの被害が出ております。その後、一番下の写真にございます様に、下流で橋津川の改修が行われたり、上流に東郷ダムができたり、だんだんと東郷池の治水の安全率というものも上がってきておりますけれども、やはりこの62年と同じ様な雨が降ると東郷池も溢れる恐れがあるということがございます。一番後ろに付けております資料が、湯梨浜町の洪水ハザードマップでございます。この地図の東郷池の周りに、青い線を入れているところがございますけれども、これが重要水防区域というものに指定をされておまして、洪水がくるとこの部分からは水が溢れる可能性が高いですというところがございます。それで、今年度からこの重要水防区域の解消に向けた河川の計画というものを策定していくということにしております。一番最初のページに戻っていただきまして、真ん中に表がございまして、河川管理者の方で河川整備基本方針というものを策定する予定にしておまして、これは手続きとしては、県の審議会、それから、市町村長の意見を聞いたりという手続きがございます。それから、河川整備計画につきまして、こちらの方が20年から30年後の河川整備の目標とか、具体的にどこをどういう様な整備をしていくんだというようなことを盛り込んだ計画でございます。この河川整備計画の策定にあたっては、関係住民の意見をなるべく取り入れていくようなことで考えておまして、中にはこの会議のメンバーの方からもこの計画を策定していく検討委員会のようなものを立ち上げることを考えておまして、ご協力をお願いするようになるかもしれません。こちらの方の予算が、現在開かれております6月県議会の補正予算で対応するようにいたしております。スタートが7月に入ってからぐらいになるかなという様に考えております。2ページ目をご覧ください。この計画策定の流れを記載しておりますけれども、7月ぐらいに始まって、12月ぐらいには先程言いました基本方針を策定いたしまして、その後1年間ぐらいをかけた整備計画の方を策定していくと、来年の12月ぐらいにはこういう計画を立てていきたいと考えております。以上、早足でしたけれども、河川整備方針と河川整備計画の策定について、ご報告をさせていただきました。どうもありがとうございました。

(山田会長)

以上でしょうか。

(中本企画課長)

パンフレットを配布しておりますが、「愛らぶ東郷池」という環境について考える取り組みが6月25日にありますので、ご参加いただければと思います。

(山田会長)

どうも皆さん方長時間ありがとうございました。たくさんの意見をいただきました。具体的にそれが実現するようなことを進行管理、また、提案等して参りたいと思います。どうもありがとうございました。